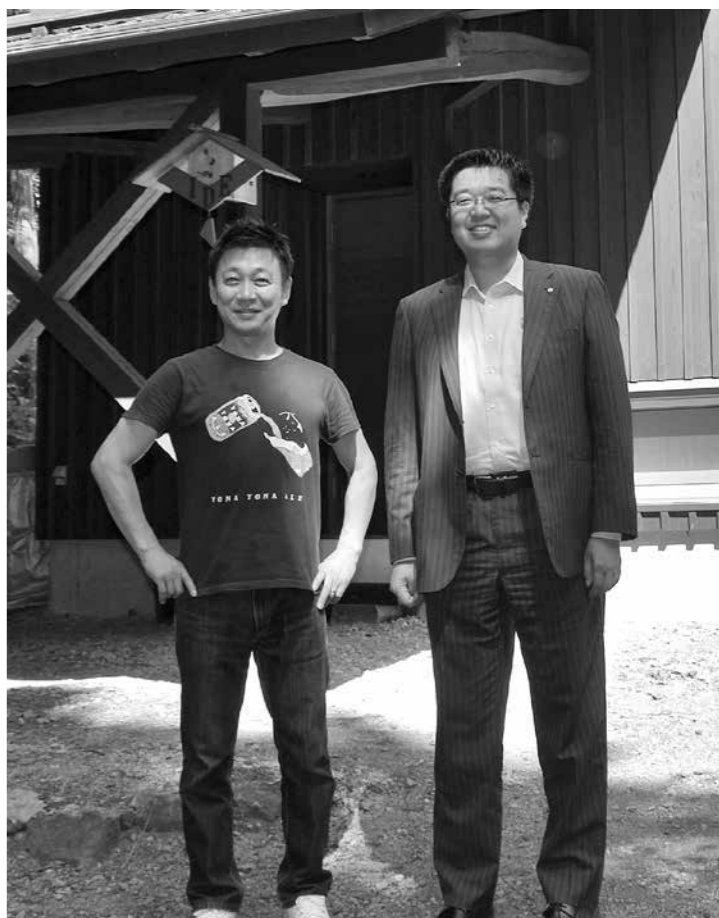


みよた未来人

町長対談

第4回 ヤッホーブルーイング 社長 井手直行さん



井手社長(左)の自宅前にて

いで・なおゆき 1967年、北海道生まれ、福岡県育ち。88年、久留米高专卒。大手電機メーカーのエンジニア、広告代理店営業職等を経て、97年、ヤッホー創業メンバーとして入社、営業担当に。2004年、楽天市場担当としてネット業務に携わり、業績をV字回復。これまで14年連続増収増益を続けてきた。2008年より現職。著書に「ぶしゅよなよなエールがお世話になります」(東洋経済新報社)



Profile

元新聞記者の小園町長が、御代田町、そして長野の、日本の未来を担うキーパーソンと語り合います。原稿も自ら執筆しています。第4回は、佐久市の小田井工業団地で「よなよなエール」等クラフトビール(※)の製造販売を手掛けるヤッホーブルーイングの井手直行社長です。住まいは御代田町内。お仕事から住まいのことまで幅広く伺いました。

※クラフトビール/大手メーカーの量産型ビールに対し、小規模の醸造所が造るビールのことで、一般的に大手製品より個性が強い。全国400社以上が競う中、ヤッホーは圧倒的トップシェアを誇る。

倒産危機からネットでV字回復 社内のチームづくりを重視

「ヤッホーには創業時に参加されていますが、どんな経緯で入られたのですか。」

井手「電機メーカー、環境アセスメント会社に勤めて辞めた後、思い立って日本中をバイクで旅するうち、東京圏ではなく田舎に住みたいと考え、軽井沢町の広告代理店に入りました。その重要な取引先だったのが星野リゾート

トで、星野佳路(よしはる)社長から「今度ビール事業をやるんだけど一緒にやってみないか」と誘われたのが、ヤッホー入社の一きっかけでした」

「14年連続増収増益、順風満帆ですね。」

井手「それまでは実はそうでもなくて…。ヤッホー創業時はいわゆる地ビールブームでしたが、その後は

売上げが年で20%も落ち込むこともあり、いつも倒産の危機と隣り合わせ。2004年に楽天市場への参加を始めたのも、ネット以外に選択肢がなかったからなんですよ」

「楽天市場での成功はどのように達成したのですか。」

井手「お恥ずかしながら37歳までビジネススキルを体系的に学んだことがなく

て、六本木ヒルズで開催される『楽天大学』に毎週のように通って、メールマガジンの書き方、キャッチコピーのつくり方など基礎の基礎から学びました。会社に帰ってきたらどれだけ遅くなってもそれをもとにメールマガジンを書いたり、ネット上の店舗を模様替えしたりというのを地道にやりました。お客さんが投稿する面白写真展みたいな何の売り上げにもならないような企画をやっているうちに固定のファンがついて、その顧客とのつながりを大事にすることで、後から売り上げがついてきました」

「2008年に社長就任し、2年ほど売り上げが微増にとどまったようですが。」

井手「ネットだけで成長するのもそろそろ限界という中で、力を出していきけるチームづくりに専念し、売り上げを最重視はしませんでした。いまでも業務開始後30分は雑談タイムを設けています。会議で意見を言うためには日ごろからの雰囲気づくりが大事です」

なファンイベントで知られていますね。」

井手「2010年に東京・恵比寿のバブを借り切って40人のファンイベントをやったのがものすごく盛り上がりまして。その後年々規模を拡大してもチケットは即日完売です。今年は10月中旬にお台場で1万人規模のイベントを開催します。これ以外にもファンの方たちが自主的に開催するファンイベントも多数開かれています」

「ところで、井手さんが御代田町内に住まわれるようになったのはどういう経緯ですか。」

井手「自宅は、2008年5月に完成したので、6月に社長になる直前でした。それまでも雪窓湖近くの借家に10年ほど住んでいました。その前は軽井沢町内に住んでいましたが、夏の渋滞で住むには不自由だと感じ、同じように自然豊かでのんびりしている御代田町が大変気に入ったんです。我が家には男の子が3人いますが、木製の剣と盾を作ったり、シカを落とす穴を作ったりと自然の中でのびのび

育っています」

「従業員の方の中にも御代田町に住む方が多いそうですね。井手「家を建てるときは御代田町で、という者は確かに多いですね。首都圏等、このあたりで住むことに不安を持っている家族は、自宅にご招待して私と妻で御代田町に住む良いところも大変なところもしっかりと伝えると、納得してくれれます」

「御代田町を愛する井手さんが、まちづくりについて思うところはありますか。」

井手「大きな開発は周辺のまちでやればよくて、御代田町では、こだわりの食べ物屋さんとか服屋さんとか手作り感があり、心が豊かになるようなお店が根付いていくことが重要なのではないかと思っています。また、当社では3年ほど、龍神まつりで出店していましたが、今後は僕をはじめ多くの従業員が地元としているこの町でほかにはないイベントを開けたらいいなとも思っています」

「楽しいまちづくりになりそうですよね。本日はありがとうございました。」



入口に飾られている数々のメダルと盾



カウンターで説明を受ける小園町長



ビール工場

